

第2回 江戸街道プロジェクトアドバイザー会議 議事要旨

日時：令和5年10月25日（水）10:00～11:30

場所：オンライン

出席者（敬称略）：

公益社団法人日本観光振興協会総合研究所 顧問 丁野 朗

株式会社リクルート 地域創造部 部長 高橋 佑司

株式会社三菱総合研究所 主席研究員 宮崎 俊哉

跡見学園女子大学 兼任講師 山崎 まゆみ

実業家 ルース・マリー・ジャーマン

特定非営利活動法人全国街道交流会議 専務理事 古賀 方子

足立成和信用金庫 理事長 土屋 武司

一般社団法人日本ウオーキング協会 事業統括専務理事 井上 成美

一般社団法人関東広域観光機構 専務理事 小堀 明夫

関東運輸局 局長 勝山 潔

関東運輸局観光部 部長 岡村 清二

議事：

- （1）第1回会議の振り返り
- （2）これまでの取組
- （3）今後の取組予定

議事要旨：

（1）第1回会議の振り返り

関東運輸局から、前回会議における委員の方からのご意見等に対する対応状況について説明。

（2）これまでの取組

関東運輸局から、今年度を実施した取組について説明。

（3）今後の取組予定

関東運輸局から、今年度これから実施予定の取組について説明。

(各委員からのご意見)

【江戸街道プロジェクト全般】

- ・江戸街道プロジェクトというテーマの下に、事業者はテーマをしっかりつくり誘客や消費喚起を促す取組につなげ、お客さまはその地域の文化などに触れ興味を持って足を運んでもらう。このマッチングがとても重要である。
- ・分散型宿泊と江戸料理という今回のテーマの位置づけを含めて、プロジェクト全体のコンセプトを深めていく。
- ・多くの方から相談を受けるが、何をすればよいのかという質問が多いので、プラットフォームはぜひ早めにつくり、情報提供できるようにするべき。
- ・(文化庁が取り組んでいる) 日本遺産からの示唆として、分かりやすさとか物語のすっと理解できるメッセージを持つことも大事。
- ・(信用金庫が取り組んでいる) 御宿場印は、来年には五街道すべてが事業として進む。脇往還でも参加希望が出ているので、今後も連携して進めたい。
- ・(ウォーキング協会では) 独自のアプリ開発もしている。古地図と現代を比較し、今昔の変化を見ることが出来る。こういった取組がプロジェクトの支援になればと考えている。
- ・世界的にはトレイルウォーキングが大きな市場となっており、日本らしさを出せると良いと思う。
- ・(報告となるが) 昔のその土地の湯治の入り方などをリサーチして、さらに温泉療法医のエビデンスのもと推奨していく取組を「温泉街道」として、群馬県と検討している。

【「伝説や逸話をコンテンツとした地域誘客促進企画」調査業務】

- ・集客が難しいのは常々感じているところ。近隣のホテルにもこの情報を早めに案内してみてもどうか。ビラを渡すだけでもよい。ホテル側もインバウンド客へ伝える良い情報を探している。
- ・レ・クレドールという団体(ホテルのコンシェルジュの国際的なネットワーク組織)がある。ぜひこういった団体とも連携するべき。
- ・質の良いイベントをこの事業の一環として送り続ける体制づくりを示すことが重要。
- ・適切な金額について、1,000円～2,000円と示されているが、為替のことを踏まえるとこれは実施する側にとって非常にづらい数字。観光産業全体としてプライシングの問題を考えていく必要がある。

【アプリを活用した街道観光への誘客・周遊促進に関する実証事業】

- ・小田原の観光は、生業をテーマにしたまち歩きが一番の核になっているので、食とか宿泊、その他のアクティビティをアプリに盛り込んでほしい。

【「アルベルゴ・ディフーズ(分散型宿泊)」による地域活性化の取組】

- ・分散型宿泊のマネジメントの仕組みを考えていくことが肝になる。
- ・富山県南砺市では多くの古民家再生があるが、泊ってみたい仕掛けがたくさんあった。職人さんと作業を一緒にしながら泊まる、お土産を持って帰れる。単に泊まるのではなく、どう差別化していくか工夫が大事。
- ・他の運輸局でも古民家再生に取り組んでいる。運輸局同士の情報共有も進めてもらいたい。

【「江戸街道、料理で伝える歴史と文化の旅」事業】

- ・どこに行けば食べられるのかというのがとても大事。本陣や脇本陣などの古い建物で食べられるのは最高だが、それだけでなく、(文化庁の事業である)100年フードの今年の日玉事業の一つとして、食べられる場所を増やし、その事業に参画している人を組織化する取組をしているので、参考になるのではないか。

以上